

復活徹夜祭

2021.4.3

マルコ 16・1-7

カトリック高円寺教会 18:30 ミサ
主任司祭 吉池好高神父

今晚、復活徹夜祭の典礼は聖堂の明りが消された暗闇の中で始まりました。この儀式は、全てのいのちがそこに終わる墓の中の闇を象徴しています。

十字架の上でこの世の生を終えられた主キリストは、墓に葬られました。信仰宣言の中でわたしたちは、「主は十字架につけられて死に、葬られ、陰府（よみ）に下り」と唱えます。こうして、神の子イエス・キリストはわたしたち人間の人生の全てを御自分のものとしてくださいました。この世の人生を終えて墓に納められ、陰府の世界に下った全てのいのちを御自分のものとしてくださったのです。

何故なのでしょう。

陰府の世界は、全ての希望がそこに終わる場所です。死の陰に覆われている場所です。全ての生ある者たちが最終的にそこにたどり着く、死の支配する場所です。主イエスは、わたしたちがこの世で経験しなければならない死の世界にも、そこにいてくださるのです。そこに希望をもたらすために、そこにいてくださるのです。死者の中から最初に生まれた方として御自分をお示しになるためです。

創造主である神によって印されたわたしたちのいのちの A（アルファ）は、死によって Ω（オメガ）が記されるわけではありません。全てのいのちの A は創造主によって刻み付けられ、全ての者の Ω は救い主イエス・キリストによって、わたしたちの中に永遠のいのちとして刻み込まれているのです。今晚の光の儀式はそのことを表していました。

今晚、わたしたちに希望を与えてくださる主の復活を喜びのうちに祝って、ますます暗闇が深まってゆくようにしか思えない今の世界の状況の中で、わたしたちの信じている信仰を新たにし、手に手に小さな明りを持って、死の暗闇に打ち勝たれたわたしたちの主イエス・キリストの弟子として決意を新たにいたしましょう。